



みよし剛史



塩沢みつえ

発行：日本共産党  
福山市議会議員団  
津之郷町津之郷 970-1  
084-952-2662

# 2025年3月議会報告

## 子どもの権利守る校則に

本市ではかつて、男女別に下着の色まで事細かに指定し、問題行動の内容に応じた、説諭や反省文、別室指導などが規定された生徒指導規程が多く定められました。下着の色を確認したり、化粧をしているか拭き取り検査をするなどの人権侵害や、指導に反発した生徒を逮捕する事例が続発しました。こうしたゼロトレランス（不寛容）の校則の問題は、国会や国連でも福山市の事例が取り上げられ、不合理なルールや、人権侵害性が強い運用が指摘されました。



一般質問を行うみよし剛史市議

市教委は2017年以降、生徒指導規程を見直し生徒が主体となつてつくり直すことを明らかにしましたが、子どもの権利を守る視点での規定が必要です。

### 下着の指定「適切」？ガイドライン策定を

生徒指導の基本文書である「生徒指導提要」では、校則について「理由を説明できない校則は本当に必要か、絶対に見直す」、「見直し手続き」が必要とし、内容の公開を求めています。

市教委はHPで生徒指導規程一覧のページを設けていますが、みよし市議は、規程を公開しているのは101校中84校で、改訂の手続きを示しているのが10校、特定の髪型を禁止しているのが2校、下着の色まで指定しているのが4校であることを指摘し、市教委として校則のガイドラインの策定を求めました。教育長は、「見直しを支援する」としながらも、ガイドライン策定は考えていないとし、下着の色や髪型の規定については、学校が適切に判断しているという認識です。校則は子どもを縛るものではなく、権利を守るものであるという理解が必要です。

## 深刻な障がい者と家族の高齢化 安心の入所施設新設を！



障がい者の施設整備を求める塩沢市議

### 深刻な待機状況 施設の整備が必要

昨年7月、千葉県長生村で起きた高齢の父親による重度知的障害の息子への殺人事件では、施設への入所申請をしたものの、3年以上断られ続け、グループホーム入居や精神病院への入院もできず、家族が毎日寝ずに介護していた実態が明らかになっています。NHKが行なった共同調査では、入所施設の待機状態にある障害者は全国で2万人を超えていることも明らかとなり、障がい者の高齢化、重度化が進む中、自宅で介護をする家族の負担も深刻化しています。

### 地域の住まい確保 安心の共生社会に

障がいのある人が地域の中で豊かな暮らしを送るために、グループホームの必要性が高まっています。市内にグループホームは124住居ありますが、定員731名に対し入居率は88%です。市は、重度の障がいのある人が入居できる「日中サービス支援型グループホーム」の整備を進める考えですが、現在の整備状況はまだ12住居です。塩沢市議は、公営住宅の活用も含め、一層のグループホーム拡充を求めました。現場の担い手不足 低い処遇の改善を 地域に必要なケアが求められる一方、担い手不足も深刻です。サービスを支える従事者の処遇改善にも積極的に取り組み、障害のある方や家族にとって安心の暮らしを作ることが行政に求められています。